

新生児の褥瘡対策と体圧測定

Risk assessment of pressure ulcer in NICU — Pressures in neonatals

褥瘡対策チーム：下村 陽子・三橋真紀子・加藤祐美子

〈要 旨〉

診療報酬改正に伴う「褥瘡対策未実施減算」において、新生児入院患者も対象となるのか検討。その根拠となる体圧測定を施行したところ、褥瘡形成圧を超える部位はなかった。よって、新生児入院患者は診療報酬上の褥瘡対策対象より外して考えることとする。

〈キーワード〉

褥瘡対策未実施減算・新生児・体圧

はじめに

平成14年10月に厚生労働省による診療報酬の改正が行われ、「特定機能病院入院基本料」が見直された(資料1参照)。その中の「褥瘡対策未実施減算」とは、「褥瘡対策に係る専任の医師、看護師から構成される褥瘡対策チームの設置」「日常生活に自立度が低い入院患者については参考様式に準じて診療計画を作り、実施する」「患者の状態に応じて、褥瘡対策に必要な体圧分散式マットレス等を適切に使用すること」の3点が義務付けられ、これが実施されていないと入院患者全員の入院費から減算されるというものである。当院では一日平均600名の患者が入院しており、もし減算が行われると、3万円/日・90万円/月・1095万円/年 の減収になる。

平成14年4月、私たち褥瘡対策チームが結成された。医師3名、看護師3名、事務職員1名で毎月検討会を行っている。また、臨床現場では「入院時、褥瘡の有無とリスクをアセスメントし、ブレデンスケール(褥瘡発生の予測スケール)14点以下の入院患者を対象に「褥瘡対策に関する診療計画書」を作成しケアにあたっている。その一環として体圧分散式マットレスも増量となり、使用されている。

一方で「入院患者数」の中には生後一ヶ月に満たない未熟児・新生児の入院患者も含まれおり、呼吸管理が必要な未熟児に対する特有の褥瘡対策を除き、一般に入院治療している新生児に対しても成人と同様な診療報酬が定めるところの褥瘡対策が必要かどうか疑問をもった。それに関しては明確な記載がなく、また経験的に新生児の褥瘡形成や過去の研究データもないため必要ないとも思われた。

そこで、その根拠となるデータが必要と考え、新生児の体圧を測定することにした。

I 方法

- 〔対象〕 入院中の新生児 13名
〔測定用具〕 帝国臓器製薬株式会社製デジタル体圧測定器・・・(写真1)
〔測定部位〕
・仰臥位 ; 仙骨部(紙オムツ有無)、頭、肩・・・(写真2・3)

- ・側臥位 ; 腰 (紙オムツ有無), 頭, 肩
 - ・腹臥位 ; 膝
- [基準寝具] 新生児用コット, マットレス, マットレスパッド, シーツ

II 結果 (表1・図1～6)

	仰臥位			側臥位			腹臥位
	頭	肩	仙骨部	頭	肩	腰	膝
平均	18.5	6.8	16.6	9.5	9.7	8.9	6.4
標準偏差	4.1	2.9	3.3	3.9	3.9	4	1.8

- 新生児の接触部位はどこも毛細血管圧である32mmHg (褥瘡形成圧) を超えなかった。
- 後頭部接触圧が中でも高かった。
- 体重と接触圧の相関はなかった。

III 考察

そもそもすべての新生児は褥瘡対策を実施しなくてはいけない『ブレーデンスケール14点以下』にあてはまる。しかし、「新生児入院患者に対する診療報酬上の褥瘡対策が実施されていないと減算の対象になるのか?」という疑問に対して接触圧を視標に体圧測定を実施した。

その結果、接触圧から考えると新生児の接触圧は非常に低く、褥瘡対策はしなくてもよいと考えられる。

しかし、実際には褥瘡形成の要因とされる接触圧・接触時間・摩擦を考慮した褥瘡対策が同一体位を強いられる未熟児・新生児には必要である。

IV 結論

診療報酬改正にともなう「褥瘡対策未実施減算」の実施において、『新生児入院患者は対象としないでよい』と、信州大学医学部附属病院 褥瘡対策チームではデータを基に検討した。

〈参考文献〉

- ・川上雪彦：医科点数表の解釈，47-51，社会保険研究所，平成14年4月版
- ・鈴木 定：医師とナースのための褥瘡診療指針，93-94，医学書院，1999
- ・日本看護協会 認定看護師制度委員会 創傷ケア基準検討会；褥瘡ケアガイダンス，51-62，日本看護協会出版会，1999

〈資料・図表〉

資料1 平成14年度 診療報酬改正内容

特定機能病院入院基本料

- ・入院診療計画未実施減算
- ・院内感染防止対策未実施減算
- ・特定機能病院入院基本料に対する減算の新設(平成14年10月1日から実施)
 - ① 医療安全管理体制未実施減算(1日につき) 10点
 - ② 褥瘡対策未実施減算(1日につき) 5点

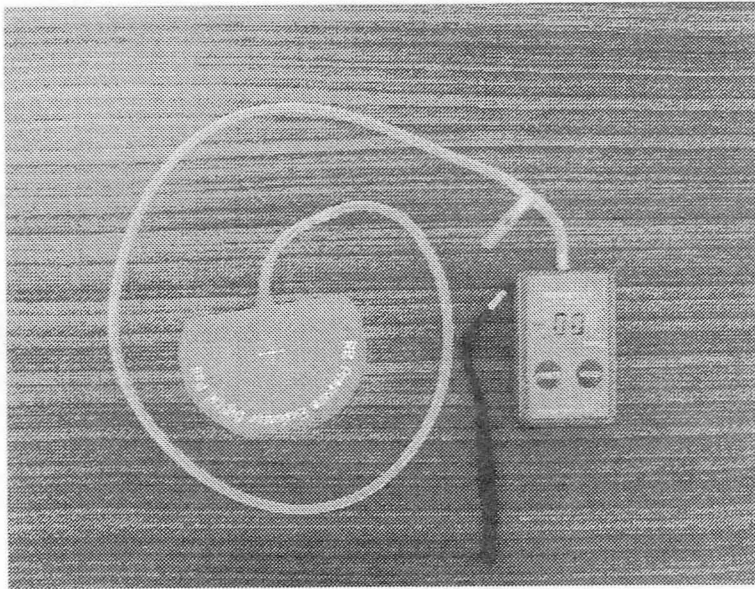


写真1 デジタル体圧測定

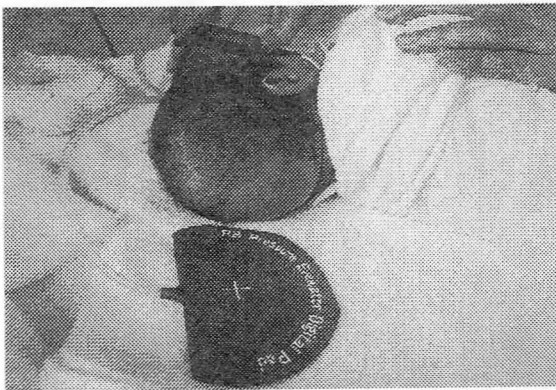


写真2 頭部接触圧測定

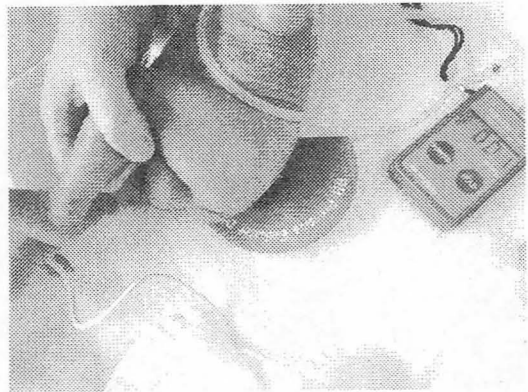


写真3 仙骨部接触圧測定

表1 接触圧測定結果

(mmHg)

被検者 (生後日数)	体重 (mg)	仰臥位				側臥位				腹臥位
		仙骨部		頭	肩	頭	肩	腰		膝
		紙オムツ有	紙オムツ無					紙オムツ有	紙オムツ無	
A(1)	2820	15	13	18	4	11	7	4	4	4
B(4)	2960	15	14	24	10	18	3	17	6	3
C(8)	2730	18	18	12	4	14	8	11	7	7
D(2)	2790	7	14	13	3	5	10	12	9	7
E(9)	2970	12	18	25	6	8	10	11	5	9
F(3)	3450	17	20	18	8	6	7	19	9	8
G(4)	3100	16	14	18	6	8	10	8	7	7
H(6)	2650	17	18	17	9	7	11	9	10	7
I(8)	3020	17	19	14	7	11	13	8	10	4
J(12)	3280	14	23	22	10	14	16	9	19	8
K(3)	2810	16	19	17	11	6	7	7	13	7
L(5)	3170	11	14	22	9	6	17	8	11	5
M(3M)	1860	8	12	20	2	10	8	8	6	7
平均	2893.077	14.07692	16.61538	18.46154	6.846154	9.538462	9.769231	10.07692	8.923077	6.384615
標準偏差	238.4594	3.546396	3.305008	4.054121	2.939562	3.928854	3.854734	4.071477	3.967819	1.804553

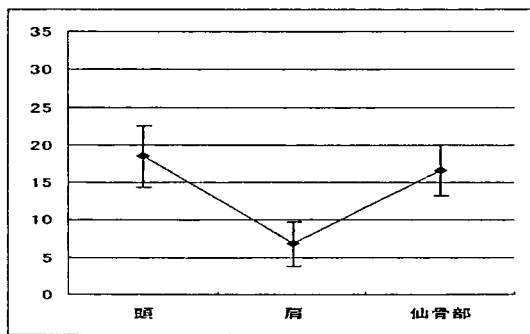


図1 仰臥位における接触圧 (mmHg)

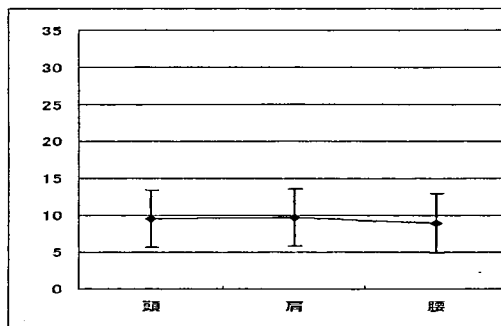


図2 側臥位における接触圧 (mmHg)

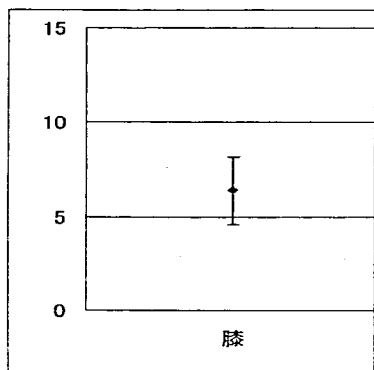


図3 腹臥位における接触圧 (mmHg)

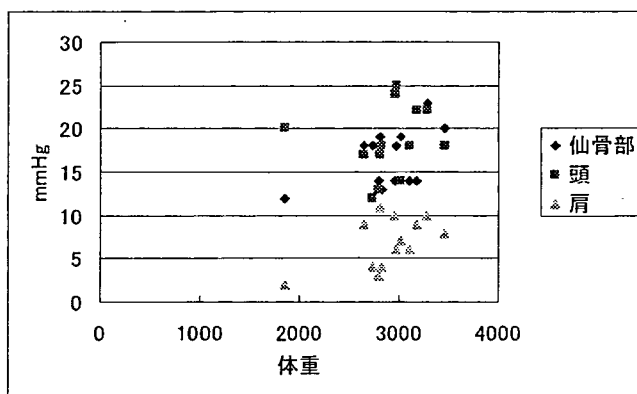


図4 体重と仰臥位接触圧の相関

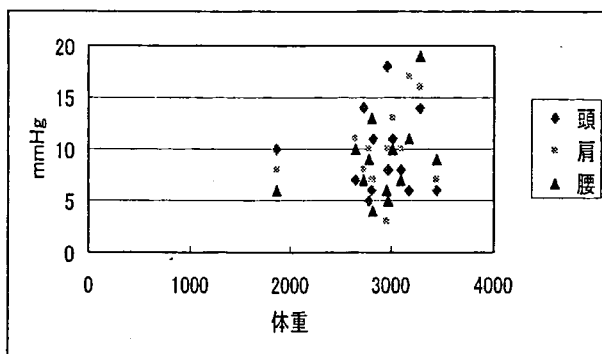


図5 体重と側臥位接触圧の相関

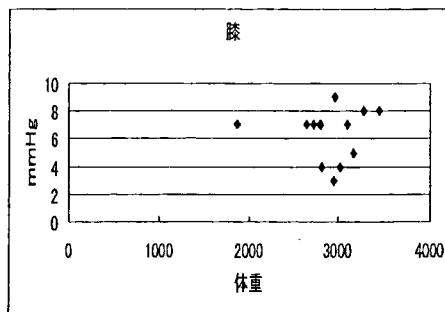


図6 体重と腹臥位接触圧の相関